

あってよさそうだけれども 「ないもの」

——学会を楽しむこと——



エレクトロニクスソサイエティ会長 益 一哉

巻頭言とは何だろうと思ひ学会誌をひも解くことにしました。幸い「学会誌 90 年の歩み (DVD)」を見つけ、早速「巻頭言」を検索。最初の巻頭言は古賀逸策先生 (1947 年 12 月号) が書かれています。その後数編の巻頭言に続いて、1988 年 1 月号宇都宮敏男先生「学会誌の将来」以降、毎号掲載されています。宇都宮先生は「20 年ぐらい先には、学会会員の大多数が個人データベースを構築し、自著論文はもとより、興味ある参考論文などがあるいはフレキシブルディスクで、あるいはコンピュータ通信により、入手整備を進めていることであろう」と述べられています。今、アーカイブ化の重要性を実体験しつつ執筆しております。現在、エレクトロニクスソサイエティでは過去からの技術研究報告 (通称、技報) のアーカイブ化を進めております。時間がかかるかもしれませんが、我々の大きな財産の一つになると思っています。

巻頭言を読み返すと 1995 年 1 月からのソサイエティ制移行への抱負と期待が多く述べられています。一方で、早くから製造業離れ、理工系離れ、学力低下、会員数減少、国際化が指摘されています。教育の重要性、博士後期課程の充実と学生への期待も数多く述べられています。私は集積回路にかかわる研究と教育に携わっておりますが、この分野で我が国は非常に苦しい状況にあります。産官 (独) 学を挙げて種々の施策を推進しているものの今一つ実効が上がってないように思え、多くの方が忸怩たる思いをしています。情報・通信、それを支えるハードウェアやソフトウェア技術の急速な発展、革命的ともいえるインターネットによる情報流通の増大、爆発に我々がついていけないのかもしれない。余り大きなことを考えず学会について考えてみました。

変化の激しい時代を生き残るための考え方の一例が「非連続思考法 (リュック・ド・ブラバンデル著)」に紹介されています。

- ・ 「ある (存在)」ことに気が付く。①元々あったものが、やはりあることに気が付く。②以前なかったものが、現在現れたことに気が付く。
- ・ 「ない」ことに気が付く。③あったものが、なくなったことに気が付く。④あってもよさそうなものが、やはりないことに気が付く (無から有を生むに通じる)。

後になってイノベーションや創造として認知されるものの幾つかは④から産み出されるように思います。学会については、教科書の編集や発行は①に分類され、やはり重要でしょう。②はなかなか思いつきませんが、私が解ききれなかったラプラス逆変換の演習問題の解法をインターネット検索で探し当てた学生には吃驚しました。「活発な質疑」「LSI デバイスメーカーの春秋の大会への参加者」が③であるならば学会の危機です。情報通信がこれだけ発達した現在でも電子情報通信学会には電話 (TV) 会議がないことは④かもしれません。厳しい視点では学会内、学会間に「競争原理」が存在しないということもあるでしょう。暗い話題に事欠かない最近の状況、また巻頭言を読み返してもちょっと厳しい指摘が多いです。その通りなのですが、今一つ元気がわきません。

バンクーバー冬季オリンピックが終了していると思います。昨今選手に「楽しめましたか?」と尋ねる光景がよくあります。楽しむよりも先にすべきことがあるだろうと言われる方もおられるかもしれませんが、一方で楽しくなければ続かないということは古今東西幾つもの表現で言い続けられております。諸先輩方の巻頭言にない言葉を探してみることにしました。1988 年から 2009 年の 264 編の巻頭言を「楽し (む, い)」で全文検索。14 編の巻頭言がヒットしましたが、「学会を楽しむ」とずばり書いているものはありません。やっと『あってよさそうなもので本会にないこと (若干欠けている)』にたどり着いたようです。

本会の中には楽しいことはたくさんあります。しかし、意外とこのことが多くの会員や若い方々には伝わっていないように思います。原点に戻って、「学会は楽しいよ!」と声高にいうところから始めませんか。